

'70

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 563 号

1970.7.28 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

会報はご家族みんなで読みましょう

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

「隔りを取り除こう」

出席報告

本日の出席	会 員 数	65名
	出 席 数	50名
	出 席 率	76.92%

欠 席 者 阿宗君、長谷川君、林君、平田(圭)君、伊藤君、金井君、岩網君、齋藤(信)君、佐藤(伊)君、佐藤(昇)君、新穂君、手塚林蔵君、津田君、辻君、鷲田君

前回の出席	前日出席率	69.80%
	修正出席数	52名
	確定出席率	80.00%

マークアップ 長谷川(悦)君—山形北RC
安藤君、海東君、小花君、今間君、嶺岸君、鈴木(善)君
—鶴岡西RC

ビジター 野川清一君—天童RC
原田行雄君、五十嵐卓三君、帯谷義雄君—鶴岡西RC

会長報告 小池繁治君

今日のスケジュールは、24日の協議会の話を5分間位、その後、SAAの方から面白い提案があったのでその報告を、それから25分間ゲスト加藤紘一君の話をきき、5分間質疑

応答の時間に充てたいと思います。

さて、本年度計画書は所定の期日までに99%出していただきまして、スケジュール通り終りました。引続きアイリンの両親を招いて記念パーティーを行い、多数の会員家族の出席を得て、盛大でした。有難うございました。

アイリンは一週間位後に、こちらにくる予定との事です。その時例会にでも招待出来ればと思います。

スピーチをお願いする加藤紘一君の略歴と演題について紹介します。外務省亜細亞局の中国課に勤務されており、元市長故加藤精三氏の子息さんです。演題は中国問題ということについてスピーチをおねがいしております

SAA 塚萬江君の報告

会長幹事ならびに前SAAチーフの参加を請い、新SAAの打合せをやりました。

山下事務局員から無断欠席者が多く、食事の余剰を生じ、無駄な支払が出て困るといわれました。そこで無断欠席者に対しては、鉛筆をボックスのところに指してお上げすることによって、200円のスマイルを頂戴したいということでもあります。高橋正太郎氏のアイデアに基くもので、鉛筆が20円するので180円の寄付をいただくことになります。何分の御協力をねがいます。遅参と早退のときも、確

実に100円を山下さんのそばにおくスマイルボックスにお入れねがいます。

例会の駐車場のことですが、手せまなので三井健氏におねがいして、例会日には広済寺と光明寺の山内を借用するように交渉をおねがいしつつあり、広済寺からは了承をいただいております。

ゲストスピーチ「中国問題について」

外務省亜細亜局中国課 加藤紘一君

日頃仕事をやってる関係上、中国問題と取り組んでおります。その事について若干お話し上げます。

我々外交官の仕事は非常に多岐に亘り、例えば香港にいたときは、中国がどうなっているかという事の研究と同時に、代議士さんがくるときには飛行場への出迎から買物の案内と細いところまで雑多な仕事がある訳です。

その中には、時たま郷里の方もお見えになります。鶴岡の人がくると、親しみがあるしまた永く国を離れていると郷愁もあって、面倒をみるに力が入るようでありました。

今東京に帰ってきて、中国問題を扱っております。さて日本の新聞は外交問題を新聞のトップに出しております。その中で一番多いのはやはり、中国の問題だろうと思います。

そこで70年来の課題と、佐藤総理は云われました。毎日のように日本と中国の関係をどうすればよいかという問題が紙上をにぎわしているのではありません。しかし実際には動いていない問題はないというのが現状であります。

それ程動かないものが、何で毎日こんなに書かれているかが問題になる訳です。それには幾多の問題があるから、それだけ書かれているのです。

身近な面から、何故これまで書かれているかのいくつかの例を挙げると、私の理解する限り四つの問題があると思います。

第一は日本は、平和憲法のもとで、平和を追求すること。そういう場合に共産圏中共ソ連というところで軍備を増強していること。これにどう対処して行くか、これには日本の安全保障の問題がかかわり、それは当然日本安全保障問題が国内でいろいろさわがれている問題の根本になる訳であります。そこで日米安全保障問題が種々と取沙汰されているのは何故かということ。当然ソ連と中国が存在するからであります。

しかし皆さん中国を敵と考えられますか。勿論中国は原爆をもってあります。共産主義の国であります。しかしそれと同時に片方では我々と同一人種であるので、何となく近親感があります。従って彼等が我々に対し悪い事をすることがあるだろうかという観念が生れる訳です。

そういう風な国を対象として日米安保を考えた場合、矛盾が出てきます。そうならなるべく中国と話し合って緊張を緩和して行く方がよいという考もあります。即ち、国際政治の論点からくる問題があります。

第二に考えられるのは、日本と中国との歴史的な関係であります。御存じの通り戦前多くの方々が中国に渡り、或程度の郷愁を感じておられる訳です。こういう人々が今中国と交渉のない状態にあるのは不自然ではないかと考えております。台湾が1,300万、中国大陸が7億5,000万の人口です。それで台湾との関係を保つことはいいことだけれども、しかし世界の人口の四分の一をもつ、この中国人、我々と同じ感情をもち、我々と同じ考をもっているかもしれない中国人、この人達とのつき合いを持たぬのはおかしいではないかという一般的な常識的な心理的な、そういうプレッシャーが政府にかかってくるわけです。

三番目に挙げられるのは経済関係、即ち日本の貿易は毎年増加しているとはいえ、それ程大きな人口をもっており資源の豊富な中国大陸が更に大きな市場になるのではないかと。無限の市場ではないかという考です。よって成るべく早く、中国大陸と貿易関係を結ぶべきでないかと、こういう日中貿易の観点からくる議論であります。

第四点に挙げられるのは、日本の国内政治の問題であります。沖縄返還の問題、70年安保の問題も比較的平穏に過ぎました。それで何が日本の政治で問題になるか。日日新聞をにぎわしているのは、公害の問題であります。

これは都市の問題です。それから農村にきますと、米をどうするかという問題です。それから外交面ではソ連から、ハボマイ、シコタンの北方領土返還の問題等それぞれありますが、そのどれ一つをとっても、国内で意見は割れない問題と思われまます。

公害の問題でも誰も公害がなければいいと思う。何とかこれをなくそうということでは意見が一致している。米の問題では皆さんど

うしたらいいか深刻に考えこむ問題ですが、農林省の人も自民党の人も恐らく未だ解答は出来ない。しかし一つのよいアイデアが出れば、その解決方法に反対する者は誰もいないでしょう。北方領土を返せという問題は、自民党から社会党まで、おそらく全員一致している問題であります。唯、日中問題だけは一番難しい問題として残ったのでありますが、この問題の処理については、左派から右派に至るまで、意見が極端に割れている状態です。

以上の四つの点から、政治面で種々の問題があり、日日の新聞に書かれている訳です。そこで佐藤総理を始め、若し中国北京政府が応じるならば、中国政府と話し合ってもいいと、それで大便級の会話をやってもいいというような線を、やっと打ち出すようになりました。

しかし中国側が、これに応じてくれるような様相は今のところありません。我中国課では、中国が応じてくるか応じてこないのか、応じてないとすれば、中国側がどういふ家庭の事情があって応じてこないのか、そういうことを毎日真剣になって研究している訳であります。

そこで、中共はどのような状態になっているかという問題を極く簡単に申し上げますと、文化革命というのが今終って末期にきております。それで中国毛沢東、林彪、周恩来という三大役者が完全な支配を行っております。それで政治的に安定しないといろいろ問題がある訳ですが、中共には文化革命がはじまって、ごたごたする前に三つの組織があって一つは中国共産党、これは権力中の権力として、中央から末端に至るまで網の目のような組織をつくり、完全な支配をやってきたのであります。

その次に、政府の組織があり、これは日本の内閣に当るのが国务院といい、その下に日本で言えば県庁それから地方事務所等の行政組織があった訳です。これが二つ目の全国組織であります。

三つ目が人民解放軍、これが軍隊の組織で中国の軍隊は政治的にも発言力があり、各地に全国組織をもっていたのであります。

この三つの組織のうち、党が最重要な地位にあったが、それが文化革命によって破壊されてしまったので、今建て直しをやっている

が、仲々出来ないのであります。

中国共産党には2,000万の党員がおり、この党組織がくずされた場合の党再建ということが非常に難しくなるのであります。唯現在では、毛沢東、林彪、周恩来の結び付が固りおちついてきたように感じられますが、先は未だ未だ困難な途があると思われまゝ。しかし文化革命をどう理解するか、いろいろ問題がありますが、毛沢東が劉少奇という党の権力者を追い出すための権力斗争があったとすれば、権力斗争は終り、一応毛沢東の支配は確立したといってもよいと思います。唯そういった中でも経済は仲々混乱いたしまして、現在の中国の経済というものは、日本の経済の大体20分の1と考えればよいと思います。

即ち、経済自体が未だ低い生活状態であるので、物資が極めて乏しい。中国では油も布も未だ配給制度を採っております。

そのような中国ですが、文化革命の問題でも、自分の国だけとにかく文化革命をやった毛沢東の指導のもとに中国をつくらうというある意味では熱狂的な、また不合理的な、また独善的な政治を3年間やった訳です。

その間毛沢東をえらいと云わなかつた各国と次々と喧嘩していた訳です。即ち、ソ連然り北鮮然りで、やっと政治が安定したと思ったりひとりになっていた。

そういう中に国境でソ連と紛争が起った。中国は軍事力はソ連の4分の1に過ぎぬから戦えば負けるに決っている。そういうことを知って、ソ連は圧力をかけてくる。そこで亜細亜安保構想とか何とか云っていますが、ソ連は東南亜細亜と手を握るようとしている。それでも中国は孤立しているのが実状であります。

最近シアムクのカンボジアのクーデターがあった訳ですが、それをきっかけとして、中国が我々の中共は米国及日本に対し強い姿勢をとるということで、北鮮などアジアの社会主義諸国と結び付きを強めて、自らの孤立を脱しようと努力している訳です。

それで日本と米国に対しては非常に強い姿勢をとっているのです。それで日本が極東緊張緩和のための話し合いをしようとしても応じない訳であります。

そこで、相手の家庭の事情が変わってくればよいが、そういうことを念じながら日日、中国の新聞を読み、又各地の県庁所在地の地方

放送を傍受した記事を読んで、どんな動きをしているか、毎日研究をしている訳です。

それでは、いつになったら、日本と中国の関係がよくなるかという問題が残る訳です。

日本と中国関係がうまく行かない最大の障害は何かと云いますと、勿論台湾の問題であります。日本は台湾と非常に友好的な関係にあり、又平和条約を結んでおります。台湾が中国の唯一の代表する政府であるとする政策をたてておりますが、中国に8億近い人口を有することを無視出来ないこと、又経済的に貿易もしなければならぬこと。又将来の事も考えなければならぬこと。何とか台湾の問題をこつちにおいておき、それで中国と話し合うことも出来ないかというのが、今の政府大体の考え方であると思えます。

いままでの経過を辿りますと、一番始めに戦いが終わった直後は徹底的に日本を敵視していた訳です。しかし54年頃日本と話し合ってもいいではないかと、それで台湾の問題はまあまあとして話し合いをという時期もあったのです。また長崎国旗事件という時期があり貿易も中断し人の往来もなくなったこともありました。65年頃には、積上げ方式で日本との関係の改善につとめたこともありました。

それから文化革命のあと、強硬な態度に出で話し合いの場を全然拒否している状態です。しかしいつの日かは台湾の問題をぬきにして、相互に話し合おうという時期がこないでもないと思えます。

それから、日本は中国とのチャンネルがなく自民党の古井、田川両議員が行っている覚え書貿易というチャンネルがあり、又貿易のおちとしてのつき合いがある訳だが、その問題について、周四原則とか覚え書貿易コミニケにみられる日本は軍国主義が復活したという中国の非難など種々の問題を含んでおります。

何れにせよ、中国問題はいくつかの面で、戦争状態を回避するという国際緊張の面でも重大な問題をかかえており、また将来東南アジアの日本貿易、その他の問題で一生懸命進出しようとするとき、やはり中国の問題というものは、非常に大きく陰を残す訳であります。

従って、成るべく早く話し合えるような状態にしておかないかというのが今の日本の与論の大勢ではないかという気がします。

一応簡単に日頃やっている仕事ですが、或

意味では日本の進路を決定するためにも重要な問題根源がどこにあるか。何故こんな状態になっているのかということについて簡単にのべさせていただきました。

(終って質疑応答の時間に入り、池内君との間に若干の質疑応答がなされた。)

幹事報告

- 会報到着 石巻東RC、酒田東RC
- 例会時間変更案内
山形RCRC 8/5(水)PM6 丸久屋上
- チャーターナイト案内
(熊本県) 八代北RC
10/18 八代農高体育館
- 理事会 8/14 11時より例会場にて
- 展示する写真送付要請
地方大会に社会奉仕、職業奉仕に参考になる写真を——8/31まで

スマイル

高橋正太郎君 安全協会優良役員として県警本部部長及び県安全協会長の表彰を受けるため

小池繁治君 会報に新会長として写真が載ったため